

## 阿蘇山の火山活動解説資料

福岡管区気象台

地域火山監視・警報センター

＜噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から3（入山規制）に引き上げ＞

阿蘇山では、12日19時頃から火山性微動の振幅が増大し、その後増減を繰り返しながら経過しています。本日（14日）15時過ぎから、中岳西山腹観測点南北動成分の1分間平均振幅で4 $\mu$ m/sを超え、大きな状態で推移しています。

本日、山麓で実施した現地調査では、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は1日あたり2,700トンと、2,000トンを超えて急増していることを確認しました。

火山活動がさらに高まった状態となっており、中岳第一火口から概ね2kmの範囲に影響を及ぼす噴火が発生する可能性があることから、本日15時45分に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から3（入山規制）に引き上げました。

### 【防災上の警戒事項等】

中岳第一火口から概ね2kmの範囲（図1）では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。

風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。また、火山ガスに注意してください。

地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

## ○ 活動概況

阿蘇山では、12日19時頃から火山性微動の振幅が増大し、振幅は増減を繰り返しながら経過しています。本日（14日）15時過ぎから、中岳西山腹観測点南北動成分の1分間平均振幅で4 $\mu$ m/sを超え、大きな状態で推移しています。

本日（14日）山麓において実施した現地調査では、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は1日あたり2,700トンと多い状態で、前回までの観測（7月28日700トン、8月6日：1,200トン）から急増しています。

火山活動がさらに高まった状態となっており、中岳第一火口から概ね2kmの範囲に影響を及ぼす噴火が発生するおそれがあることから、本日15時45分に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から3（入山規制）に引き上げました。

中岳第一火口では、本日は白色の噴煙が最高で火口縁上800mまで上がっています。監視カメラでは、中岳第一火口内の状況には特段の変化は認められません。

GNSS連続観測では、2026年5月頃から草千里を挟む基線及び広域の基線において、草千里付近の深部にあると考えられるマグマだまりへのマグマの蓄積を示唆する伸びが認められます。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページでも閲覧することができます。

[https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/now/kazan/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、京都大学、九州大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、国立研究開発法人産業技術総合研究所及び阿蘇火山博物館のデータも利用して作成しています。

資料の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています。

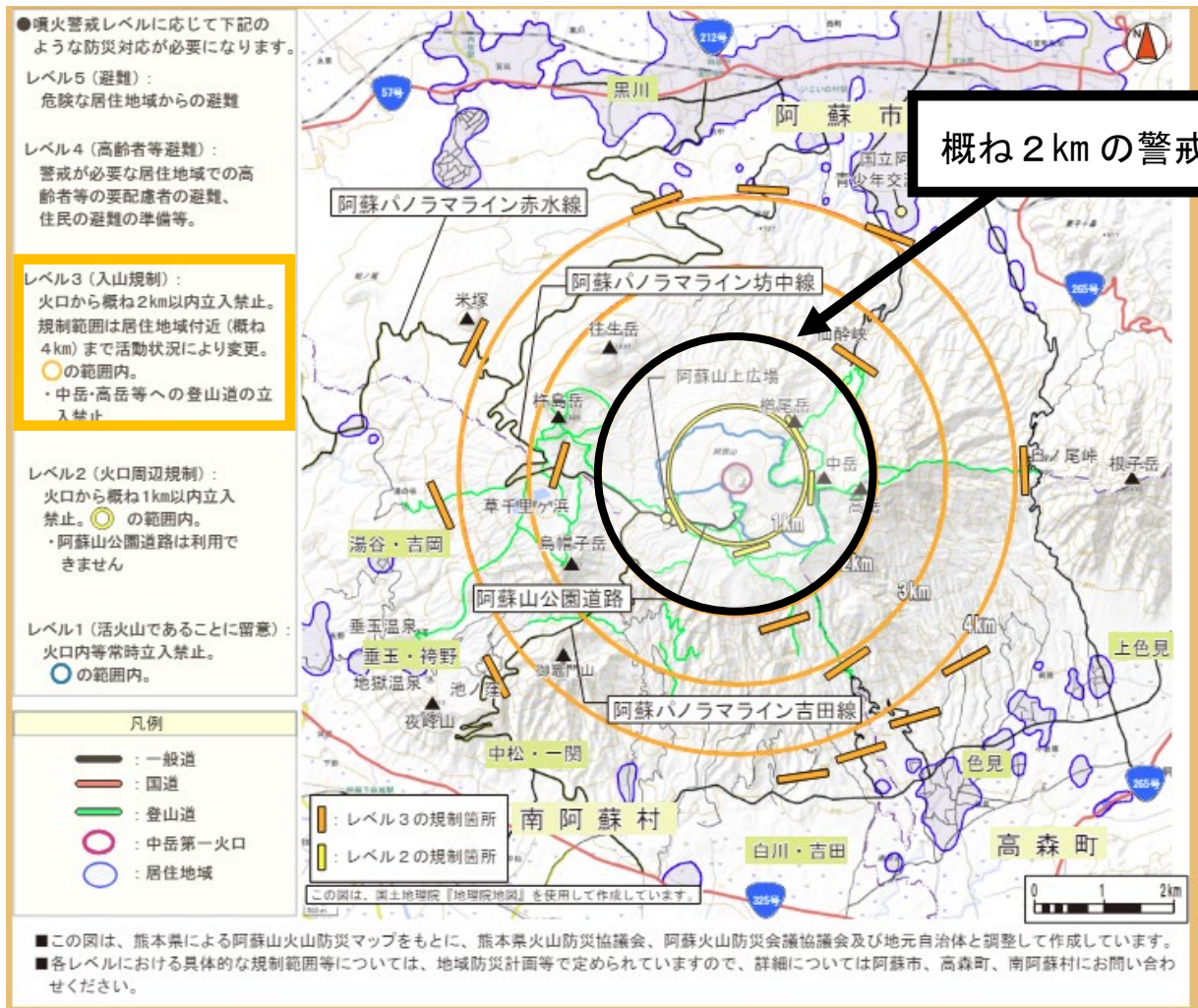


図1 阿蘇山 警戒が必要な範囲

中岳第一火口から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。

風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。また、火山ガスに注意してください。

地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

※居住区域は火口から4km以上離れている。

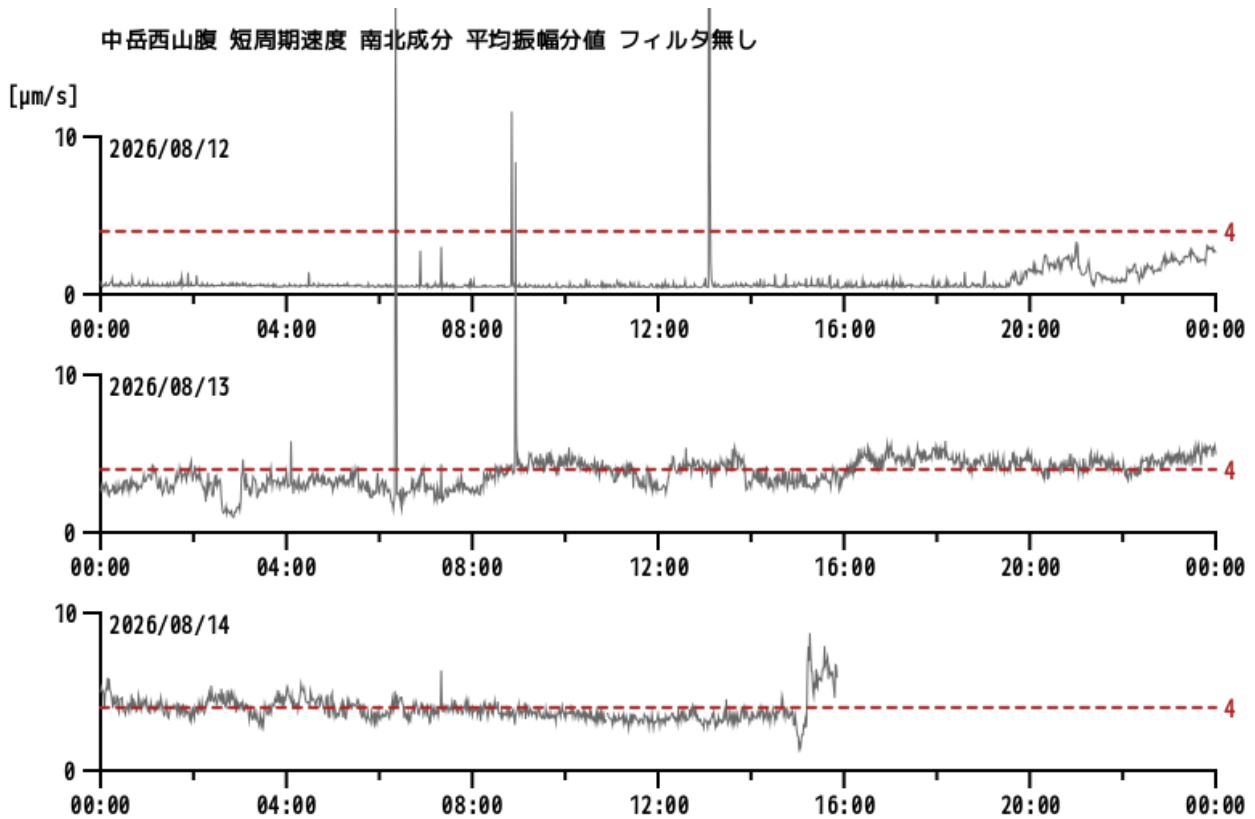


図2 阿蘇山 火山性微動 1分間平均振幅

(中岳西山腹観測点南北動成分、8月12日00時～14日16時00分頃)

12日19時頃から火山性微動の振幅が増大し、振幅は増減を繰り返しながら経過していました。本日(14日)15時過ぎから、中岳西山腹観測点南北動成分の1分間平均振幅で4 $\mu$ m/s(赤破線)を超え、大きな状態で推移しています。

1分間平均振幅で毎日07時20分頃にみられる振幅の高まりは校正信号によるものです。

図3 (次ページ) 阿蘇山 火山活動経過図(2024年8月～2026年8月14日15時(速報値))

- ・本日(14日)は白色の噴煙が最高で火口縁上800mまで上がっています。
- ・火山性地震と孤立型微動は2025年1月中旬頃から増加した状態で経過しています。
- ・12日19時頃から火山性微動の振幅が増大し、振幅は増減を繰り返しながら経過していました。本日(14日)15時過ぎから、中岳西山腹観測点南北動成分の1分間平均振幅で4 $\mu$ m/sを超え、大きな状態で推移しています。
- ・火山ガス(二酸化硫黄)の放出量は、14日の観測では1日あたり2,700トンと多い状態で、前回までの観測(7月28日700トン、8月6日:1,200トン)から急増しています。
- ・5日に実施した現地調査では、中岳第一火口内に概ね灰白色の湯だまりを確認しました。湯だまり量は約6割と前回(7月23日:約7割)より減少していました。湯だまり面の最高温度は77℃と前回(7月23日:73℃)と同程度でした。
- ・南側火口壁の最高温度は391℃と、前回(7月21日:347℃)と比べて上昇していました。

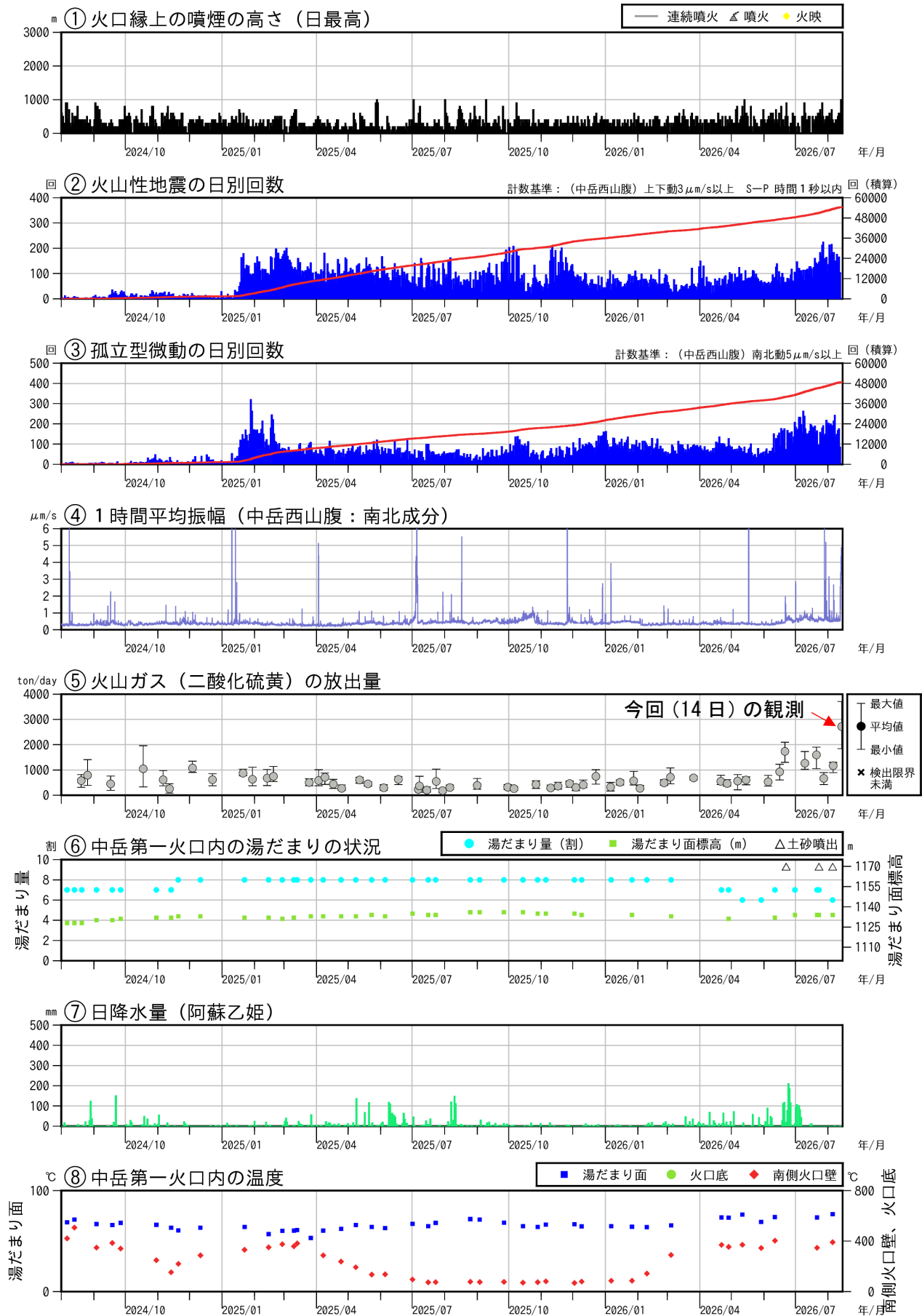
赤線は火山性地震や孤立型微動の回数の積算(右軸)を示します。

⑤、⑥及び⑧は現地調査の結果を示しています。

⑥の湯だまり量及び湯だまり面標高は、火口縁からの観測で確認しています。

⑦はアメダス阿蘇乙姫(中岳第一火口から北西約8km)の観測値です。

⑧は赤外熱映像装置で計測しています。火口底温度は湯だまり表面と南側火口壁を除く火口内の温度を示します。





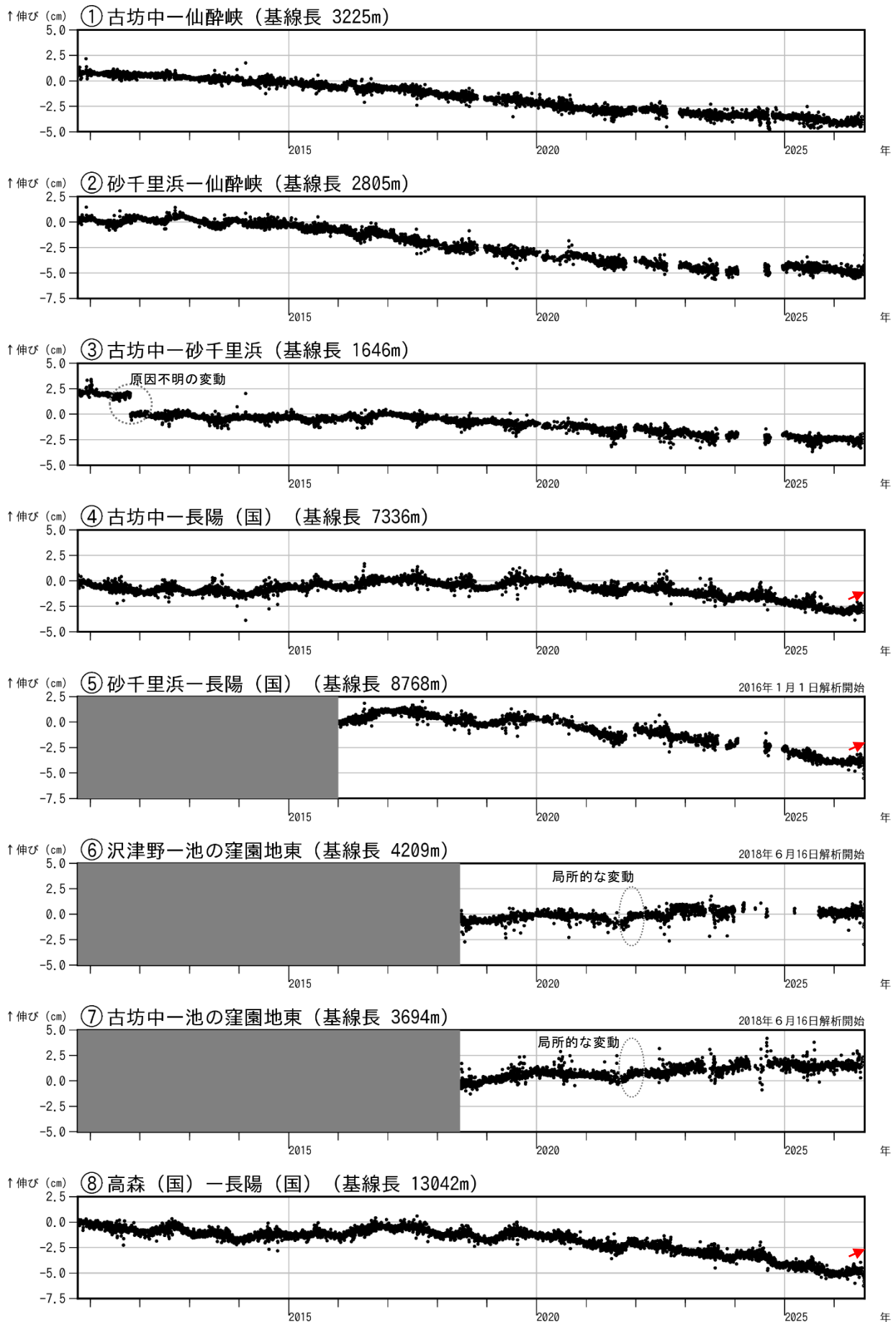


図4 (前ページ) 阿蘇山 GNSS 観測による基線長変化

(2010年10月～2026年8月12日)

GNSS 連続観測では、2026年5月頃から草千里を挟む基線(④、⑤)及び広域の基線(⑧)において、草千里付近の深部にあると考えられるマグマだまりへのマグマの蓄積を示唆する伸びが認められます。

これらの基線は図5の①～⑧に対応しています。基線の空白部分は欠測を示しています。

2016年4月16日以降の基線長は、平成28年(2016年)熊本地震の影響による変動が大きかったため、この地震に伴うステップを補正しています。

2016年1月以降のデータについては、解析方法を変更しています。

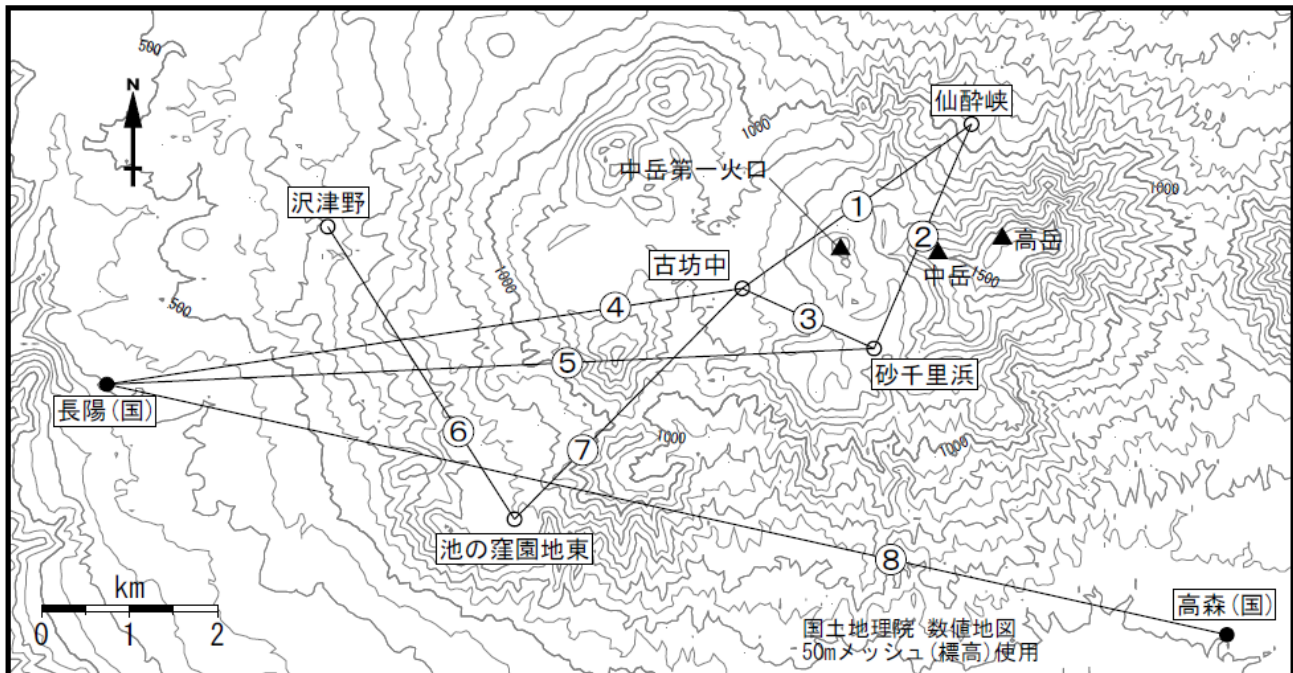


図5 阿蘇山 GNSS 連続観測点と基線番号

小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

(国)：国土地理院

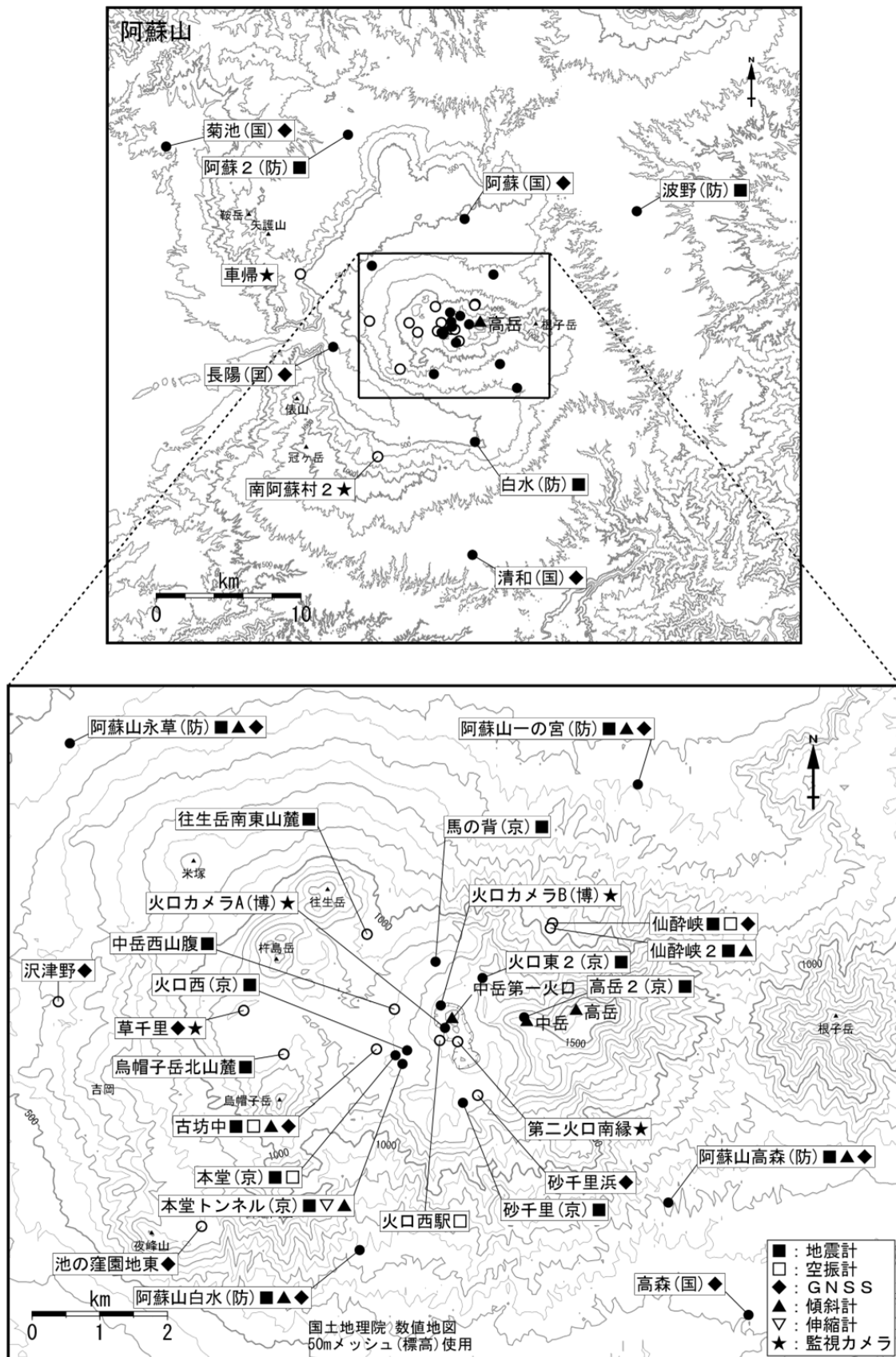


図6 阿蘇山 観測点配置図

小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。  
(京)：京都大学、(防)：防災科学技術研究所、(博)：阿蘇火山博物館、(国)：国土地理院